

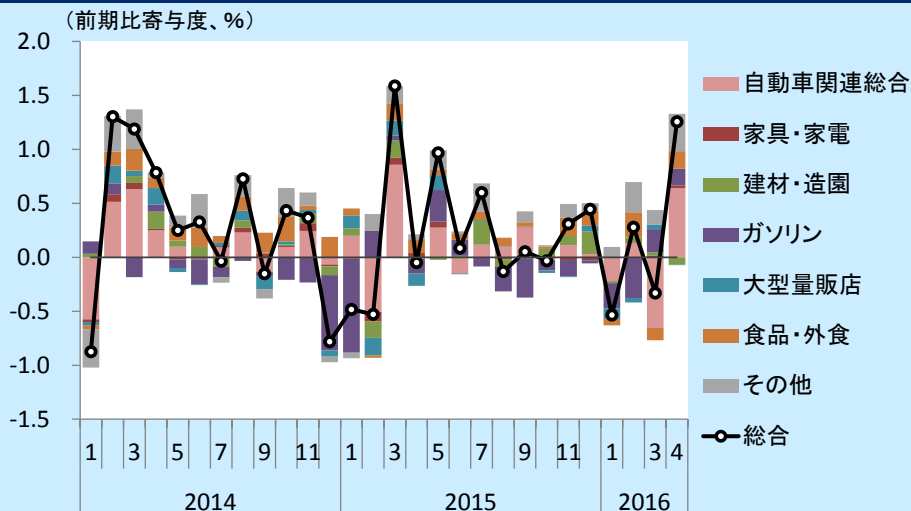
米国：小売売上高（2016年4月）

—1～3月の弱い動きの反動により、大幅に増加—

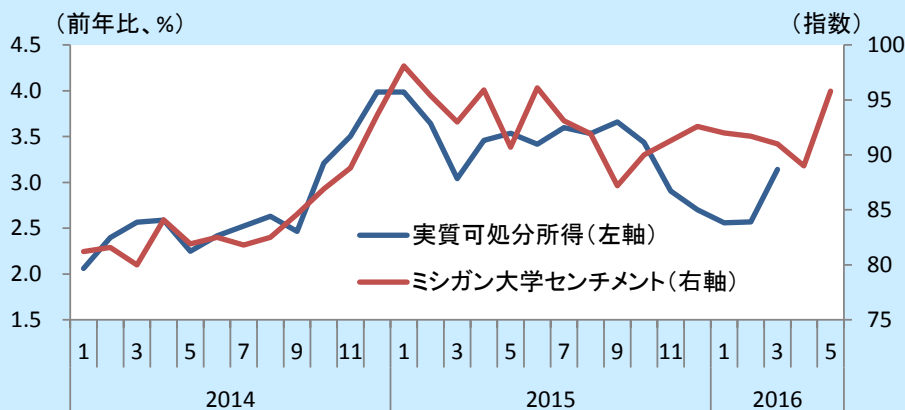
MRI Daily Economic Points

May 16, 2016

図表1 小売売上高 項目別 寄与度



図表2 実質可処分所得と消費者マインド



資料：米国商務省、ミシガン大学

評価ポイント

今回の結果

- 4月の米小売売上高(5/13日公表)は、前月比+1.3%と、2ヶ月ぶりの増加。伸びの鈍い状態が続いた16年1～3月の反動増もあり、4月は15年3月(同+1.6%)以来の高い伸びとなった。
- 内訳をみると、幅広い項目で前月から増加した。前月大幅な減少となった自動車・関連部品(前月比+3.2%)が2ヶ月ぶりに増加。ネットショッピングなどの増加を背景に、通信販売(同+2.1%)も高い伸びとなった。また、小売売上高に占める割合の高い食品・飲料(同0.9%)や外食産業(同+0.3%)が2ヶ月ぶりに増加したほか、住宅市場の緩やかな回復を背景に、家具(同+0.7%)も底堅く推移している。
- 14年半ば以降、減少が続いてきたガソリン(同+2.2%)は、ガソリン小売価格の上昇により、2ヶ月連続で増加した。

注)小売売上高は名目値で公表されるため、価格の上昇は売上高の増加につながる。

基調判断と今後の流れ

- 4月の小売売上高は大幅な増加。16年入り後は、1～2月の金融市場の不安定化による消費者マインドの慎重化などを背景に消費がやや鈍化したが、市場の動揺が和らいだ4月は、その反動で高い伸びとなった。
- 先行きの消費は緩やかな拡大基調を維持すると見込む。①原油安や雇用・所得環境の回復を背景に、16年以降も実質可処分所得は前年比+2.5～3.0%程度と堅調な伸びを維持しているほか、②住宅価格の上昇が消費を下支えしている。③消費者マインドも改善に転じており、消費者を取り巻く環境は比較的良好である。
- ただし、消費の拡大ペースは、①年初の株安による資産効果のはく落に加え、②低金利下で拡大したサブプライム自動車ローンを中心に消費者ローンの伸びが鈍り、2015年よりも緩やかになると予想する。